

総合特区デイサービス改善インセンティブ事業 説明会資料

平成28年3月25日
岡山市医療政策推課

平成27年度
デイサービス改善インセンティブ事業の結果について

H27総合特区デイサービス改善インセンティブ事業の概要

デイサービス改善インセンティブ事業にアウトカム評価を導入。評価指標の達成、かつアウトカム評価上位事業所に奨励金を付与

H27.6
参加事業所への確認



H28.2
指標による評価



H28.3
アウトカム評価



H28.3
インセンティブ付与

参加要件(必須)
①評価指標のデータ(調査票)の提出
参加...153事業所

○評価指標のデータ収集
○調査結果から、評価指標のベンチマークの達成の可否状況で評価する(72事業所)

	評価指標
1	外部研修への参加状況
2	岡山市主催の研修会の参加回数
3	認知症高齢者の受け入れ人数
4	機能訓練指導員の常勤換算人数
5	介護職員のうち、介護福祉士の常勤換算人数

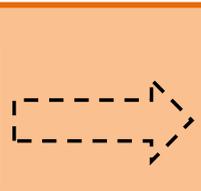
指標達成事業所のうち、日常生活機能評価の維持・改善度で評価

【指標達成事業所かつアウトカム評価上位】
表彰 + 奨励金 + 情報公開

【指標達成事業所】
表彰 + 情報公開

②日常生活機能評価を継続的に実施すること。

H27.9
日常生活機能評価



H28.2
日常生活機能評価

No	評価項目	選択肢(配点)		
		0点	1点	2点
1	安静の判断	なし	あり	/
2	どちらかの手を胸元まで持ち上げられる	できる	できない	/
3	寝返り	できる	つかまる物が必要	できない
4	起き上がり	できる	できない	/
5	座位保持	できる	支えが必要	できない
6	移乗	介助なし	一部介助	全介助
7	移動方法	介助なし	介助が必要	/
8	口腔清潔	介助なし	介助が必要	/
9	食事摂取	介助なし	一部介助	全介助
10	衣服の着脱	介助なし	一部介助	全介助
11	他者への意思の伝達	できる	できない時がある	できない
12	介助の指示が通じる	はい	いいえ	/
13	自傷行動	なし	あり	/

19点満点で合計点が低いほど、介助を要しない(=元気)。

指標による評価

下記の5つの指標は岡山市と市内事業所が共同して選定した「デイサービスの質を評価する指標」です。デイサービス改善インセンティブ事業では5つの評価指標のうち、3つ以上の指標のベンチマークを達成した事業所指標達成参加事業所としています。

	評価指標	ベンチマーク	ベンチマーク達成事業所数
1	外部研修への参加状況 延べ人数／職員数(常勤換算人数)	評価対象事業所の平均値以上	53事業所 (50)
2	岡山市主催の研修会の参加回数	5回のうち3回以上参加 (3回のうち3回とも参加)	124事業所 (85)
3	認知症高齢者の受け入れ人数 実人数／利用定員 (H26はⅡa以上、H27はⅢa以上)	評価対象事業所の平均値以上	54事業所 (73)
4	機能訓練指導員の常勤換算人数 常勤換算人数／職員数(常勤換算人数)	評価対象事業所の平均値以上	65事業所 (61)
5	介護職員のうち、介護福祉士の常勤換算人数 常勤換算人数／職員数(常勤換算人数)	評価対象事業所の平均値以上	65事業所 (67)

* 下段、()内の数値はH26の値

指標達成事業所数

H27は、72事業所／153事業所参加

H26は、60事業所／160事業所参加

5つ達成・・・ 4事業所
4つ達成・・・23事業所
3つ達成・・・45事業所

＜参考＞5つの指標の補足

○外部研修の参加状況

事業所が、職員に対して介護サービスの向上に寄与する研修にどの程度研修にさせているかを評価しています。

○市主催の研修会の参加状況

岡山市が開催する介護サービスの向上に寄与する研修(機能訓練や認知症ケア、摂食嚥下等)にどの程度参加しているかを評価しています。

○認知症受け入れ人数

日常生活自立度Ⅲa以上の認知症の高齢者の受け入れている人数を評価しています。

○機能訓練指導員の常勤換算人数

理学療法士、作業療法士、柔道整復師、看護師等のリハビリ専門職である機能訓練指導員の人数が多い事業所を評価しています。

○介護職員のうち、介護福祉士の常勤換算人数

専門的知識と技術をもって認知症や寝たきりの人、障害があるために日常生活を営むことに支障がある人たちに対し、身体的、精神的自立を助けるために入浴、食事、排泄等の介護を行う介護福祉士の人数が多い事業所を評価しています。

日常生活機能評価を活用したアウトカム評価

- デイサービス改善インセンティブ事業参加事業所が、平成27年9月、平成28年に2度にわたってサービス利用者へ日常生活機能評価調査を実施しました(※1)
- その結果、1回目調査より2回目調査の方が日常生活機能評価得点が低い人(状態が維持・改善した人)が多い事業所のうち、利用者の状態の維持改善率が高い事業所の上位10位に岡山市から奨励金が付与されます。
- 奨励金の金額・・・@80,000円×12事業所(同率10位が3事業所あるため)

日常生活機能評価票

No	評価項目	選択肢(配点)		
		0点	1点	2点
1	安静の判断	なし	あり	
2	どちらかの手を胸元まで持ち上げられる	できる	できない	
3	寝返り	できる	つかまる物が必要	できない
4	起き上がり	できる	できない	
5	座位保持	できる	支えが必要	できない
6	移乗	介助なし	一部介助	全介助
7	移動方法	介助なし	介助が必要	
8	口腔清潔	介助なし	介助が必要	
9	食事摂取	介助なし	一部介助	全介助
10	衣服の着脱	介助なし	一部介助	全介助
11	他者への意思の伝達	できる	できない時がある	できない
12	介助の指示が通じる	はい	いいえ	
13	自傷行動	なし	あり	
合計点数				点

19点満点で合計点が低いほど、介助を要しない(=元気)。

※1

日常生活機能評価とは、急性期病院や慢性期病院で使われている看護必要度のうち、ADLを図る標準化された13項目から尺度。

岡山市ではこの尺度を使い、デイサービス利用者に調査をして、事業所ごとの維持・改善状況をもとにアウトカム評価を平成27年度から実施しています。

アウトカム評価上位事業所の選定方法

事業所による利用者の日常生活機能の維持・改善に資する取組を評価するものであり、1回目調査得点と2回目調査得点の差によって、利用者を「悪化群」、「維持群」、「改善群」に分け、それぞれ、「0点」、「1点」、「2点」とし、事業所ごとの平均値(※)を算出し、上位10位をアウトカム評価上位事業所として奨励金を付与する

※アウトカム評価基準値

= 1回目調査と2回目調査の得点の差の評点(0点、1点、2点)の事業所ごとの平均値

<基礎データ>

○1回目調査

- ・調査時期 H27.9
- ・回答事業所 136事業所
- ・延べ件数 4865件(重複除く)

○2回目調査

- ・調査時期 H28.2
- ・回答事業所 131事業所
- ・延べ件数 4616件(重複除く)

※1回目、2回目共通事業所 125事業所
(有効件数 3471件)

日常生活機能評	平均値	標準偏差	最小値	最大値	N
(1回目-2回目)	-0.06	1.40	-16.00	6.00	3471
日常生活機能評価得点の差					
(1回目-2回目)	悪化(0点)	維持(1点)	改善(2点)	合計	
-16	1	0	0	1	
-15	0	0	0	0	
-14	0	0	0	0	
-13	1	0	0	1	
-12	0	0	0	0	
-11	0	0	0	0	
-10	1	0	0	1	
-9	6	0	0	6	
-8	4	0	0	4	
-7	0	0	0	0	
-6	9	0	0	9	
-5	11	0	0	11	
-4	35	0	0	35	
-3	76	0	0	76	
-2	171	0	0	171	
-1	0	422	0	422	
0	0	2035	0	2035	
1	0	432	0	432	
2	0	0	162	162	
3	0	0	59	59	
4	0	0	25	25	
5	0	0	14	14	
6	0	0	7	7	
合計	315	2889	267	3471	

アウトカム評価上位事業所

平成27年度デイサービス改善インセンティブ事業のアウトカム評価上位事業所(奨励金付与対象事業所)は次のとおり。

順位	事業所名	定員	アウトカム 評価基準値
1	さっちゃん家デイサービスセンター	10	1.333
2	津高寮デイサービスセンター	25	1.292
3	松風会デイサービスセンターカドタ	25	1.250
4	デイサービスプチアイル益野	13	1.200
5	デイサービスケアビレッジたけべ	18	1.184
6	デイサービスセンターアルフィック東川原	55	1.176
7	会陽の里デイサービスセンター	18	1.125
8	デイサービスあゆむ	15	1.118
9	デイサービスココファン高屋	20	1.111
10	デイサービスかりん	10	1.083
10	デイサービス 笠井の里	18	1.083
10	デイホーム縁	9	1.083

【アウトカム評価結果概要】

指標達成事業所

事業数・・・72事業所

最高値・・・1.333

平均値・・・0.977

最低値・・・0.625

* 10位が同値のため、計12者

インセンティブの付与のあり方

- 参加事業所 (153事業所) …… 情報公開(一覧)
- 指標達成事業所 (72事業所) …… 情報公開(一覧) + 情報公開(個票) + 表彰
- 指標達成事業所かつアウトカム評価上位 (12事業所) …… 情報公開(一覧) + 情報公開(個票) + 表彰 + 奨励金

情報公開(一覧) ……市のHPで参加事業所名や連絡先等を一覧で公開します。

情報公開(個票) ……市のHPで事業所の理念や事業所のPR等を公開します。

表彰 ……平成27年度デイサービス改善インセンティブ事業にて指標達成したことを賞し、賞状を付与します。

奨励金 ……アウトカム評価上位を賞し、奨励金として8万円を付与します。

平成28年度
デイサービス改善インセンティブ事業について

H28年度デイサービス改善インセンティブ事業 評価指標(案)

	評価指標	考え方	ベンチマーク
1 継続	外部研修への参加状況 (延べ人数/職員数(常勤換算人数))	外部研修の参加人数(対象研修を限定列举予定) ・キャリア段位アセッサー講習研修、 ・認知症総合アセスメント(DASC)研修、 ・認知症介護指導者研修、認知症介護実践リーダー研修、認知症介護実践者研修 ※過去に受けた場合であっても、受けた職員が現職の場合は、人数に含める。	「評価対象事業所の平均値以上」とする予定
2 継続	岡山市主催の研修会の参加回数	岡山市が主催した介護職員スキルアップ研修(全3回)に参加した回数	
3 継続	認知症高齢者の受け入れ人数 (実人数/利用定員)	岡山市が抽出した「日常生活自立度Ⅲ以上の利用者」の人数	
4 継続	機能訓練指導員の常勤換算人数 (常勤換算人数/職員数(常勤換算人数))	機能訓練指導員の常勤換算人数 (従業員勤務一覧表から算出)	
5 継続	介護職員のうち、介護福祉士の常勤換算人数 (常勤換算人数/職員数(常勤換算人数))	介護職員のうち、介護福祉士の常勤換算人数 (従業員勤務一覧表から算出)	

平成28年度に新規に加える指標の候補

○医療機関との連携状況(デイサービスDASCモデル事業の参加の有無)

→MCILレベルの認知症の利用者がいた場合に、医療機関に受診勧奨を進めることを検討中

○地域連携拠点として多職種連携会議への参加状況

○デイサービス利用者のうち要介護認定の更新で非該当になった人数

○デイサービス利用者のうち重度者の受け入れ人数

デイサービスDASCモデル事業について

～認知症総合アセスメント(DASC)を活用した指標調査研究事業(平成27年度)～

○目的

- ①要介護認定者の多くが活用しているデイサービスの場において、DASC調査を実施することで、MCILレベルの認知症がどの程度存在しているのかを把握する。
- ②MCILレベルの方を在宅医への受診につなげることが認知症の早期発見・早期治療にどの程度影響があるのかを調査する。

○事業スキーム

デイサービス(23事業所)

①DASC調査(1回目:H27.10)
認知症の疑いのある利用者には、在宅医に認知症診断を受けるように受診勧奨。

③認知症と診断された利用者についてケアマネとの共有や事業所におけるサービスの見直しを行う。

④DASC調査(2回目(H28.1))

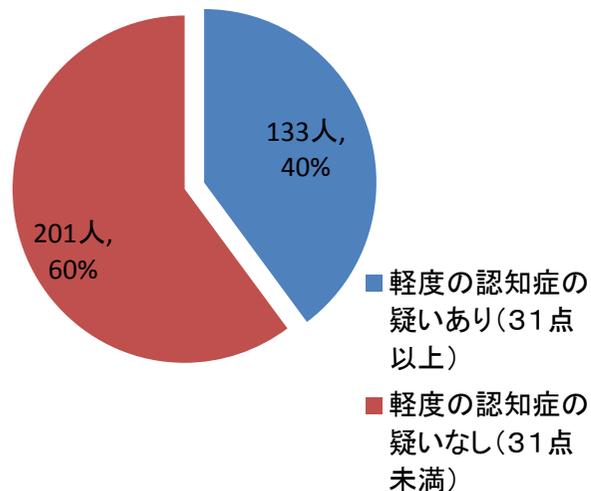
在宅医(8人)

②認知症診断
・診断内容に応じて、精密検査を受けるよう勧める、自身のかかりつけ医に相談するよう進める等指示を行う。
・「疾病名」と「日常生活自立度」を利用者に告げ、利用者あるいは家族はその情報をデイサービスへ伝える。

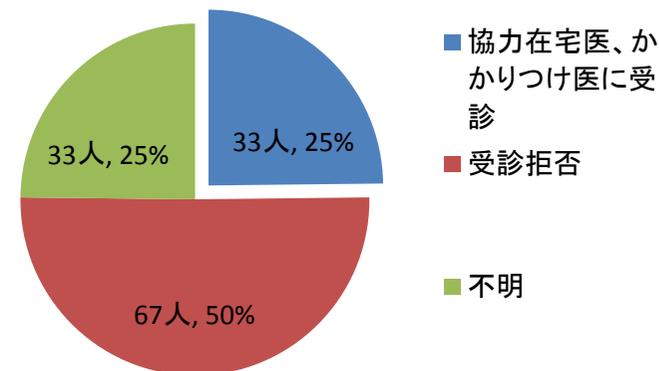
調査結果

- ①1回目のDASC調査を行った334人(=認知症の診断を受けていない利用者)のうち、133人(約40%)が軽度の認知症の疑いがあるとの調査結果が出た。
- ②軽度の認知症の疑いがあると調査結果が出た133人に受診勧奨をした結果、33人(約25%)が在宅医やかかりつけ医で診断を行った。
- ③受診勧奨したが、受診を拒否したケースが多く、67件(約50%)がかかりつけ医や協力在宅医でも診断を拒否している。そのうち、拒否理由としては、本人や家族の拒否、協力在宅医が遠い等の利用が挙げられる。
- ④1回目調査で31点以上(133人)かつ2回目調査で点数が維持改善した人数は60人であり、維持改善率は約40%(60人/133人)

①DASC調査実施者



②、③その後の対応状況



「多職種連携会議への参加状況」について

H28.1に実施したアンケート結果(有効回答136件)

- | | | |
|---|---------|--------|
| ①多職種連携会議に参加したかどうか | 有・・・63 | 無・・・73 |
| ②多職種連携会議に参加するなどして、
ネットワークを作ることは重要だと思うか | 有・・・134 | 無・・・2 |

⇒ 多職種連携会議への参加は重要だとの意見が圧倒的に多く、参加している事業所も半数近くあることから、評価指標への導入は可能ではないか

アンケートに記載された意見(抜粋)

- ①さまざまな職種・立場からの話が聞けるので、勉強になる
- ②さまざまな意見が生まれ、問題解決に向けたより良い取組みができる
- ③時間の都合が合わず、参加したいが、なかなか難しい

平成28年度デイサービス改善インセンティブ事業 スケジュール

平成28年6月 第7回総合特区デイサービス改善インセンティブ事業
説明会(事業スタート)

平成28年6～7月 介護職員スキルアップ研修
(日常生活機能評価実施研修)

平成28年8月 日常生活機能評価(1回目)

平成29年2月 5つの指標の達成状況の報告

平成29年2月 日常生活機能評価(2回目)

平成29年3月 第8回総合特区デイサービス改善インセンティブ事業
説明会(インセンティブ付与)
情報公開



介護職員スキルアップ研修
の開催(全5回予定)

※上記は現時点の想定であり、変更する場合がございます。



介護サービス質の評価先行自治体検討協議会

○目的

状態像が維持・改善した場合に介護サービス事業者へインセンティブ付与を実施している自治体の取組を共有するとともに、平成30年度の報酬改定に向け、持続可能な介護保険制度への政策提言（インセンティブ加算の創設等）を行う。

○協議会の構成員（6自治体）

川崎市、品川区、名古屋市、福井県、滋賀県、岡山市

○協議内容及び時期

- ・ 第1回協議会（各々の取組の報告）
日時：平成27年11月13日（金）14:00～16:00
場所：岡山市（岡山市役所内第3会議室）
- ・ 第2回協議会（政策提言の骨子案協議）
日時：平成28年7～8月ごろ
場所：東京（品川）付近の会議室
- ・ 第3回協議会（政策提言の確定）
日時：平成28年10月21日（金）
場所：岡山市（岡山市で開催される全国介護サミット関連）
- ・ 厚生労働省へ政策提言（H28年度内）